

横浜にぎわい座 平成 30 年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
一 文化 事業 ①	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「横浜にぎわい寄席」「名作落語の夕べ」とともにチケット販売数が目標数を上回ったことを評価する。特に「名作落語」の 36.8%の高いアップ率は特筆に値する。テーマ設定などの企画性やシリーズ券の先行割引販売の成果と考えられる。</li><li>・子どもの創造性育成の取組を高く評価する。寄席体験プログラム、市立学校に出向いての学校プログラムは着実に成果を上げ、他では見られない横浜市独自の事業として今後へ大きな期待を抱かせる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・二つ目だけの奨励会（仮称）を 1 回につき 3～4 人、毎回メンバーを変えて年 3～4 回位開催してはどうか。にぎわい座というハレの舞台で複数の演者が競演し、互いに刺激し合うことで観客動員を計ることは落語界全体の 5 年後、10 年後に大きくつながるものと思います。</li><li>・教育委員会や教育機関と連携しての大衆芸能を主題とした教員向け研修会の内容を工夫されてはいかがでしょうか。子ども達が落語を聞いて、どんな場面でどんな反応を示したかを分析することで、教育に活かせるものがあるのではと思います。落語には様々な人物が登場し笑いの対象になりますが、決してバカにしたり本気で怒ったりはしません。そこには人と人との触れ合いの大切な部分が具体的に描かれていると思います。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幅広い公演企画、創造的な取り組みなど、客層の違いも配慮しながら多様に展開、いずれも公演回数、入場者数ともに着実に増えており、努力の結果が数字で見えてきていることを高く評価したい。また、若手育成にもしっかりと取り組まれていると考える。一方、鑑賞機会の拡大については、団体向けの貸切公演などの成功例がみられる反面、学校やこどもを対象とするアウトリーチ系活動は、未実施もあり、ニーズやアプローチなどを工夫する必要があるかもしれない。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リピーターの確保と新規利用者の開拓のバランスは難しい。市の施設である以上引き続き新規開拓の努力は必要であろうが、実効性から考えればリピーターの確保のほうがコストも少なく、メリットも大きいと言われている。経営資源の制約から、優先順位を考える必要もあるだろう。また、各事業の顧客ニーズ、満足度などの動向については引き続きしっかり調査分析しながら、エビデンスに基づく戦略を考えていただきたい。なお、有料入場者率はあまり高くないように思われる。この点についても今後検討されたい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「にぎわい寄席」や「名作落語の夕べ」は落語芸術協会、落語協会、両協会の大衆芸能の奥行と面白味を楽しめる、「にぎわい座」ならではのプログラムであり、また区民優待デーや「こども寄席」など、各層各年代の鑑賞者の裾野を拡大する多彩で魅力的なプログラムが、様々な手法を通じて市民に提供されています。</li><li>・基本方針で大衆芸能について「ユーマアとニュアンスを含んだ豊かな日本語にふれる機会」であると示しており、大衆芸能の本質的な魅力を顕在化、大衆芸能を後世へ継承し、芸術文化を通し市民生活の向上を図るとの果たすべき役割を常に認識し、事業に取り組んでいます。</li><li>・寄席独特の魅力的な雰囲気醸しだす、取り組みが企画公演等プログラム随所（チーフプロデューサー・現館長の高い専門性も貴重）にみられ、事業実績も概ね目標達成、又は目標以上であり、地道に鑑賞者の拡大や創造につとめるなど、演芸の専門館として総じて高く評価できます。</li><li>・市民の大衆芸能に関する学習、創作活動等の支援が豊富な実施内容（大衆芸能を中心に多彩なジャンル）を以て、アウトリーチも含め着実に展開されています。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運営管理にあたる方々の館総力をあげての取り組みからは、大衆芸能及び「にぎわい座」への愛着も伝わってきます。そこで、さらに来館者に親しんでもらうために、スタッフのお勧めコメントに加えて、表方、裏方など館のスタッフの紹介もどこかにあるとよいと思います。</li><li>・アンケートの活用等により、（例えば「狂言と落語で楽しむ」において継続公演を望む声がある）観客の反響等を運営に活かし改善する等、専門性を尊重しつつ、今後もにぎわい座と市民がともに、大衆芸能を作り上げていくことを期待しています。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・経常公演事業を 212 事業実施し、入場者数も月平均 3,877 人と目標を 17%上回った点。</li><li>・「名作落語の夕べ」では集客効果のある公演を行い、1 公演のチケット月間枚数が 171 枚（目標比 37%増）に達した点。</li><li>・にぎわい会員制度で年間新規登録者数を 3,801 人獲得した点（累計 15,565 人）。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鑑賞の裾野の拡大のための「大人のための寄席体験」が 1 回にとどまっているため、複数回の実施を望みます。</li><li>・市民ニーズ把握のための取組である公演モニタリングが大学生による 1 回にとどまっていますが、多様なニーズをくみ取るため、幅広い年齢層、性別、職業などのグループに対しても依頼されるといいでしょう。</li></ul>
一 文化 事業 ②	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・引続き「名作落語の夕べ」上演演目のホームページ上の公開、「にぎわい寄席」チラシに全出演者の顔写真掲載を評価し、更なる情報内容の充実を期待する。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報収集提供の取り組み努力は評価できるし、また、電子大福帳の取り組みはこれまでの公演のデータベースを構築するという観点から、民間ではできないインフラ整備であり、高く評価できる。また、地域への貢献活動も多様に行われており、横浜市や関連施設とのコラボも、調整の努力とともに、評価したい。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・広報は年代によって利用される媒体も大きく異なることが分かっており、賑わい座で実施されている広報の効果も丁寧に検証されたい。例えばツイッターのフォロワーはどの程度いるのだろうか。また、電子大福帳は貴重なデータベースであり、ぜひ公開に向けて作業を継続してほしい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チラシの配置見直し、掲示版へ最新情報の提供、利用者が手に取りやすい広報の取り組み、ピンポイントへの配信実施といったきめ細かく、丁寧な情報提供をしており、来館の成果につながっています。</li><li>・自主公演最新の様子 SNS 発信など、初心者から愛好家まで広く興味を喚起する情報提供のありかたに多様な工夫や努力がなされています。</li><li>・ウェブ、紙媒体だけでなく、広報よこはま区版や町内、又周辺駅ホームへの看板掲出など、多彩なツールによる広報発信と、新規開拓の拡大につとめています。</li><li>・福祉施設や銭湯、栄区の古民家での落語会など、発想豊かで多彩なアウトリーチを実現。市民と大衆芸能を繋ぐ場面づくりを展開しており、とりわけ中学生の職場体験、学生の視点でのモニタリングなど、若い世代に積極的に働きかけている点は大いに評価できます。</li><li>・共催、自主、貸館、各公演における野毛地区との連携プログラムを通じ、街のにぎわいづくりの一端に貢献しており、同時に「魅力のストリート・にぎわい座界限」を形成することも可能であり、地域、館双方にとって良い成果をもたらすものと、期待できます。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・電子大福帳公開について、必要な検証を、十分に行った上で公開することが望ましいと思われるので、公開時期（31 年）の判断は適正だと思います。</li><li>・今後とも、「記録」と「有効活用」の資料ともなる貴重な情報ソースであることを踏まえて、更新など、正確な情報の提供が早期に提供されることを期待します。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・チラシ配架の見直しや回答掲示位置のリニューアルを実施し、利用者への配慮がなされている点。</li><li>・電子大福帳への公演情報入力を進め、資料整理や研究に対しての今後の役立ちが期待される点。</li><li>・公演紹介だけでなく、地域情報などを含む Twitter を年間 765 回配信している点（目標比 91%増）、</li><li>・季節の館内装飾展示入れ替えを毎月行い、施設利用者に飽きさせないようにした点。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・youtube 版「横浜にぎわい座」チャンネルは登録者数 6 名、最後の動画投稿が 2 年前（投稿数 6 本）でとどまっているが、動画を活用した PR は文字（日本語）中心の Twitter と異なるメッセージを送れるので、投稿を継続してほしい。</li><li>・ホームページでリンクが切れているコンテンツがある（例：季刊誌「賑々」電子版）ので、プログラムなど使用してリンクチェックをするとよい。</li></ul>

横浜にぎわい座 平成 30 年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
Ⅱ 施設運営	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>公演中の携帯電話抑止装置の設置を評価する。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>利用率向上を図る当面の具体的な方策として、空き室広報など施設利用システムの改善が有効と考えられる。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>これまでの経験を基に、安定的な施設運営がなされていると考える。ただし、これまでも継続課題とされているホールほかの施設の利用が依然として未達である。様々な努力をされており、また様々な要因があるかと思うが、交通の便などロケーションには有意性がある。丁寧なニーズ調査や掘り起こしが必要であろう。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>予約システムの改善・機能向上は、今後の活動促進、利便性の向上とともに、限られた人的体制の中での効率性を担保するためにも必須である。早期に着手されることを望みたい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>組織の適正な人材配置及び育成が行われ効果的に機能しています。人材配置では、状況に応じて体制を組めるなどの柔軟性、更には、携帯電話抑止装置の設置やマナーチラシ作成など、来館者要望への随時実施姿勢を高く評価したいと思います。</li><li>貸館運営体制について、初利用の場合、専任スタッフ一名がつくなど、利用者のニーズを視野に全般的に細やかな体制が組まれています。見学会の実施や、大学サークルへのポイントを絞った宣伝活動など、将来の成果につながる地道な利用促進の取り組みも評価できます。</li><li>個人情報法他の取り扱い、トリプルチェックを含め適切に実施されています。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設利用率については、自己評価にも記載されていますが、それぞれの箇所のセールスポイントを洗い出し、利用者にとっての可能性やメリットを的確にめりはりを以てPRされることを期待します。</li><li>利用率、利用収入をあげるとは、結果として市民の文化活動促進にもつながり、館事業の幅をひろげる効果もあり、今後も引き続き取り組みに期待しています。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>芸能ホールの利用率 80% を達成できた点。</li><li>経常公演前後のホール活用プランである番組収録やMV撮影を 8 回実施した点（目標比 100% 増）。</li><li>売店事業者（のげ茶屋）とのタイアップを年間通じて 36 回実施した点。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>小ホール、練習室、制作室の利用率が目標未達で、PR 方法のみならず利用ルールの見直しを含め検討が必要です。</li><li>修繕・備品の買換が目標未達ですが、細やかな対応が利用者満足度向上に繋がりますので対応して下さい。</li></ul>
Ⅲ 維持管理	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>適切に維持管理されていると評価する。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設設備ともに適切な保守点検、修繕がなされていると評価できる。一方、施設自体も経年劣化し、高齢者が多いという観客層の特徴を考えると丁寧な運営と考えられる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>高齢者だけでなく、多様な人々を受け入れられる施設であり、必要な専門的研修については、ぜひ時間を見つけて受けられるようにしてほしい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設、設備の保守点検が適正に行われ、小破修繕については優先順位を的確に判断し実行しています。</li><li>事故防止や防犯、感染症各対策も滞りなく管理が行われています。</li><li>安全安定のための人的配置、点検や避難訓練、マニュアルの整備など全般にわたって適確かつ目配りもきいています。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>事故防止、緊急時の対応の項目で、職員の退職により資格取得者（サービス介助士）の在籍なしとありますが、達成指標にも掲げられており、早急な対策を期待します。</li><li>経年劣化による不具合については、横浜市とも密な連携を取りつつ、速やかに対策を講じられるよう努めていただくことを期待します。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>小破修繕に対して速やかに対応した点。</li><li>「小ホール火災訓練・避難訓練」と「地震避難、障がい者誘導」という内容の異なる避難訓練を実施している点。</li><li>来館者による施設快適性評価が 4.44（5 点満点）を得ている点。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>築年数が経過するにつれ、設備の不具合は増加すると予想されます。これまで以上に施設全体の管理責任者と情報を密に共有しながらトラブルを未然に防ぐ取組に関わって下さい。</li><li>サービス介助士資格者が退職したことで、不在となっていますが、速やかに職員の同資格取得を支援して下さい。</li></ul>
Ⅳ 収支	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>公演チケット収入の好調により、自主事業収入と自主事業費の収支差が 13,492 千円のプラスとなったことを評価する。</li><li>事業運営団体においては事業直接費の収支の安定が最も肝要である。</li></ul> <p>（収入）147,375,812 円－（支出）133,883,378 円＝13,492,434 円</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設運営とかかわるが、指定管理収入と並ぶ主要な収入源であるチケット販売、協賛金、グッズの販売など事業収入の伸びで補填できている点は評価できるが、利用料金収入が目標に達しておらず、依然として依然として課題である。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>（施設管理での指摘をご参照ください）</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自主事業収入の増収は、指定管理料のみに依存せず、知恵や工夫をもって管理運営にあたる持続可能型の収入構造取り組みの成果だと高く評価します。光熱水費高騰による赤字はありますが、収支の内実は、貸室の利用促進、協賛獲得、オリジナル商品の開発など大衆演芸への親しみにつながる工夫と努力で収入をあげ、良く健闘されています。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>にぎわい座に適した収支のバランス確保に取り組んでいただき、貸館運営については利用者にとって知りたい情報やメリットを整理して適確にPRし利用促進をしていってください。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>自主事業収入が 147,375,812 円、雑入が 4,459,996 円とそれぞれ予算比 400 万円増を達成した点。</li><li>自主事業収支（自主事業収入－自主事業費）が約 1,350 万円の黒字であった点。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>光熱費や修繕費実績が増加しているので、次年度の予算編成の段階では実態に即した予算計上をして下さい。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>今回作成いただいた資料 1 ～ 3 は見やすく細部まで整理された優れた資料だと思います。良い仕事をするためには現況を正しく詳細に把握することから始まることを実感しました。</li></ul>			

横浜にぎわい座 平成 30 年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
総括	<ul style="list-style-type: none"><li>・チケット収入の好調による事業収支の安定が続いていることを高く評価したい。高いレベルで事業を継続するためには不可欠の要因だと思います。</li><li>・「にぎわい寄席」は更なる内容（顔付け）の工夫を期待し、「名作落語の夕べ」では上演が少ない作品の発掘も期待したい。</li><li>・教員向け研修会では先生に落語を好きになってもらい、多くの落語を聞いてもらい、登場する人物を素材に生徒との話し合う中で自然と教育に生かせるものが見えてくるのではと思います。時間は掛かりますが、拙速に結果を求めないことも大事だと思います。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全般的に安定的でしっかりした運営管理ができており、多様な工夫と試行錯誤は指定管理者ならではの試みと思われる。また、公演事業が好調で収益も上がってきている点は高く評価したい。（指定管理料は全体の約 55%。ただし、芸能ホールでも単純に推計すると有料入場者率は 6 割を切っていることから、伸びしろがあると考えられる。）</li><li>・アウトリーチは、外部環境との関係もあり（例えば学校は今超多忙である）、必ずしもスムーズに進むとは思われないので、運営上の優先順位も考えながら、経営資源の配分を考える必要があるだろう。</li><li>・ホール等の貸し出しについては、その優位性を生かして新たなマーケットを開拓する必要もあるように思われる。事業収入に比べ利用料金収入はさほど大きなものではないが、賑わい座の地域でのプレゼンスやブランディングにもつながる重要課題であろうから、引き続き努力を期待する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・30 年度も事業面においては、年間のプログラム構成、地域との連携、工夫を凝らしたパブリシティなど大衆芸能の魅力と奥深さ、楽しみを市民に提供し、視察での客観的な印象からも、にぎわい座らしさや、寄席の雰囲気づくり、ホールの心地よさが総合的に、市民を豊かな大衆芸能の世界に引き込んでいます。</li><li>・施設運営については、来館者にも安全安定、細やかな運営がなされていますが、サービス介助士資格取得者の空白期間については、事故予防や緊急対応にかかる分野であるところが、他の目標設定数値と異なり、一考を促したいと思います。</li><li>・収支については、数値では赤字の項目もあるものの、前年増の自主事業はじめ、総じて努力の成果があがりつつあり、利用促進、大衆芸能魅力の伝達、仕組みの改善、新情報の提供などによくつとめられ、健闘されています。</li><li>・良いものを来館者に心地よく提供し、次世代を含め鑑賞者の裾野を拡大、にぎわい創出など、館総力をあげて取り組んでおり、大衆芸能のシンボルの拠点としての確たる存在感を示していることは、高く評価できます。</li><li>・今後も横浜市民にとって愛着と誇り、親しみの大衆芸能専門館として、発展浸透していただきたいと期待しています。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・公演事業においては、自主事業公演、企画公演などすべてにおいて集客増に繋がっている点を評価します。また、館内装飾展示の入れ替え、チラシ内容の工夫、Twitter の活用など、リピート客と新規客層法に対してアピールを積極的に進めている点も評価できます。これらの結果、自主事業収支も黒字を継続できています。</li><li>・他方で、大ホール以外の稼働率は目標を下回っています。様々な取り組みを進めているものの、利用には至っていないことから利用ルールを見直す時期に来ているように思われます。</li><li>・今後、施設の経年劣化に伴い、ハード面の満足度は減傾向となると予想されますので、接遇を含めたソフト面の一層の充実が不可欠です。</li></ul>

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目			H30年度計画		実施状況			評価			
Ⅰ文化事業目標①			指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価		
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。	(1) 幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等を企画・実施します。 (市民ニーズに応え、常時魅力あるプログラムの提供)	1	【経常公演事業】 ①毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催	□年間公演数	200公演以上	212公演	チェン B	芸能ホールは212公演開催。小ホール(のげシャール)公演を合わせると年間252公演開催。	【成果】 ・「横浜にぎわい寄席」では区民優待デー開催や団体誘致を積極的に行った結果、今年度も入場者数の目標を達成しました。「こども寄席」も春休みと夏休みの2回行い、夏は完売、春は前年度の集客を上回り、こどもたちが大衆芸能に親しむ機会を増やすことができました。 ・リニューアル2年目の「名作落語のタベ」は、月ごとにテーマを決めて公演するなど企画性のある公演を定着させ、チケット販売数を昨年よりもさらに増やし、一公演平均171枚、前年度比25%増と好調な伸びとなりました。特に、にぎわい座で出演者を依頼した5月と10月については大入りとなるなど、名作落語の変化に対するお客様のダイレクトな反応が見られました。 ・企画公演(全116公演)は、柳家権太楼、三遊亭円楽、林家たい平、立川志らく、柳家三三といった定例の人気公演のほか、小ホールの登竜門シリーズで実績をあげている若手演者を抜擢した公演、「新春特選ニッポンの芸」「御注文に応じます! 文治・二楽二人会」などにぎわい座独自の公演も行い、演芸の専門館としての使命を果たしています。		
		2	②所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□合計入場者数(月平均)	3,300人以上	3,877人 (合計46,527人)	A	芸能ホールの入場者数は月平均3,877人、年間46,527人。正月興行、「名作落語のタベ」が好調。			
		3	「横浜にぎわい寄席(毎月1-7日)」: 落語芸術協会と落語協会に所属する芸人が同じ日に出演する、「横浜にぎわい座オリジナルスタイル」の寄席形式の公演を実施し、安定した集客を確保	□チケット販売数数(一公演あたり平均)	105枚以上	111枚 (合計9,362枚)	B	6月に金沢区の区制70周年記念区民優待デーを実施し、368枚販売。			
		4		□こども寄席	2回	2回	B	にぎわい寄席の4月、8月の日曜日を「こども寄席」として開催。8月は完売。			
		5		■団体鑑賞をPRするタイアップ企画 区制周年事業 鉄道事業者とのタイアップ(準備)	実施	区民優待(1) PTAお試し鑑賞(4)  鉄道事業者との連携準備は未実施	区民優待販売は前述の通り。 鉄道事業者との連携は未実施だが、代わりに団体購入を促進するため、188校のPTAに案内し、8校が参加した。				
				□チケット販売数(一公演あたり平均)	125枚以上	171枚	A	年間12公演のチケット販売数は2,052枚で、前年度比25%増、目標値比37%増。			
				■企画性のある公演	実施	毎月テーマを決めた落語会を実施	前期6公演、後期6公演のセット券を割引販売。前期16セット、後期17セットの売上があった。				
				■シリーズ券の先行発売		実施	実施	4月「旅の噺特集」に春風亭柳若を抜擢。			
		7		■注目の二ツ目落語家の抜擢	実施	実施					
		8									
	9	「企画公演(毎月8回程度)」: 落語、漫才、コント、講談、浪曲、奇術、喜劇などバラエティ豊かな内容の公演を日替わりで開催			□公演実施	月8回程度	月平均9.7公演 (合計116公演)	A	企画公演は、独演会、親子会、一門会、真打昇進披露公演、襲名披露公演などバラエティ豊かな内容で開催。		
	(2) 創造的で発信性のある取組を実施します。	10	①創造・挑戦的な取り組み						【課題】 ・Gettii(チケット予約システム)の導入後3年が経過し、引取期限の切れた予約チケットの自動キャンセルの実施や人気公演の枚数制限や抽選販売の実施など、チケット販売方法についての見直しが必要な時期にきています。		
		11	・にぎわい座から生まれる作品の増加(ネタおろし・新作発表等) (企画公演に含まれる)	■演芸の歴史的な変遷を紹介する企画公演	開催	実施		3/21に明治以降の風刺歌の変遷を紹介する公演を実施した。		【成果】 ・演芸の歴史的な変遷を紹介する企画公演として、演説歌からフォークソングまで、明治以降の風刺歌の変遷を紹介する公演を小ホールで開催しました。チーフプロデューサーによる解説が入る講座形式で進行し、充実した内容の公演となりました。また、チラシ裏面に演説歌の系譜を掲載するなどの工夫を行いました。 ・好評の上方落語と江戸落語の聴き比べを楽しむ会として、10月の「名作落語のタベ」と11月の「上方落語会」で『時そば』と『時うどん』など、東西で関連する落語を四席ずつ口演しました。両公演購入者にプレゼントを進呈するなどのしかけも好評で、10月は大入り、11月もそれに近い集客となりました。 ・野毛ゆかりの評論家、故・平岡正明氏にスポットを当てた公演では、あらゆる分野に精通した氏をさまざまな切り口から紹介する、にぎわい座ならではの公演となりました。同時期に2階展示コーナーで、氏の遺稿や写真、ゆかりの品の展示も行いました。 ・昨年度に引き続き2回目の開催となる「狂言と落語で楽しむ」シリーズ(協力:横浜能楽堂)は、「人間vsもののけ」というテーマで上演しました。後半の出演者とチーフプロデューサーによる座談会も盛り上がり、アンケートからも今後の継続を望む声も聞かれ、参加者の満足度の高い公演となりました。 【課題】 ・人気落語家による公演だけでなく、「にぎわい座ならではの切り口で企画した公演は、話題性もあり、新規顧客の獲得にもつながる可能性があるため、継続した実施が望まれます。	
		12	(名作落語のタベに含まれる)	■「上方落語会」を開催し、江戸東京落語と上方落語それぞれの特色を紹介	開催	実施		10/6「名作落語のタベ」、11/10「上方落語会」で連続企画公演を開催。東西で関連する落語を4席ずつ口演し、聞き比べた。8月の「上方落語会」では住吉踊りの歴史について触れたパンフレットを配布した。			
		13	・出演者の新たな挑戦を長いスパンで体感(人気公演シリーズ化) のげシャール公演(年間10公演)	□年間公演数	10公演以上	10事業17公演	A	「コラアゲンはいごうまん・春風亭一之輔 二人会」「ダメじゃん小出の黒く塗れ!」ほか。			
		14		■野毛ゆかりの評論家、故・平岡正明氏を紹介する公演	実施	実施		5/31「『革命』寄席featuring平岡正明」、5/1-31関連展示「平岡正明展『平岡的』」を開催した。			
15		・近隣文化施設との連携による新しい舞台作品の創造	■狂言と落語のコラボレーションなどにぎわい座オリジナル公演を開催	実施	実施		3/9「狂言と落語の会～人間vsもののけ 勝つのはどっちだ」を横浜能楽堂の協力を得て開催。				
16			■個性的なロケーションでのアウトリーチ演芸会の実施	実施	実施		7/15本郷ふじやま公演の古民家で「にぎわい座出前落語会」、10/27黄金町バザール2018参加で「3ガガヘッズ出前演芸会」を実施。				



平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

(3) 若手実演家育成の仕組みを作り実践します。	17	①主として小ホールを活用した若手育成 ※のげシャーレで芸を磨き、芸能ホールへステップアップ」というコンセプトの明確化 「登竜門シリーズ in のげシャーレ」:若手芸人研鑽の場として小ホール(のげシャーレ)のシリーズ公演を実施	□年間公演数	20公演以上	23公演	A	国本はる乃、東家一太郎という浪曲の会も大入りで定着。	【成果】 ・若手育成公演「登竜門シリーズ」は2つの新シリーズを開始しました。完売・大入公演も増えており、若手落語家の勢いを感じられました。さらに「登竜門シリーズ」で大入りを続けている桂宮治、立川こはるの「新風落語会」出演により、二人が芸能ホール進出を近年中に果たすことを観客に印象づけました。  ・昨年度の課題を受けて、登竜門シリーズの卒業生など、有望な若手の育成を継続的行うため、小ホールでの共催公演を設定し、立川志の八、三遊亭萬橋、瑞姫の出演する3公演を共催公演としてサポートしました。  【課題】 ・落語に続けて、浪曲、講談と好調ですが、若手漫才の公演がそのふたつと比べると動員が鈍っています。
	18		□平均入場者数	100人以上	104人 (年間2396人)	B		
	19		■新規ニツ目の会をスタート	実施	実施		三遊亭正太郎、三遊亭わん丈の独演会をスタートさせた。	
	20	登竜門シリーズ卒業生等の活動をサポート	□にぎわい座共催公演を設定し、受入れ	2公演以上	3名3公演受入	A		
(4) 鑑賞者の拡大を図る取組を実施し、事業を支える仕組みを構築します。	21	①市民ニーズ把握の取組 ・全公演でのアンケート実施	□アンケートの実施回数	全公演実施	実施		回収率8%、3,172枚回収し、全職員で共有。	【成果】 ・公演来場者アンケートや貸切公演主催者アンケートは予定通り実施し、高い満足度を得ています。アンケートに書かれたお客様のご意見・ご要望を全職員で共有し、接客対応や施設・設備の改善につなげています。  ・横浜商科大学の学生3名の公演モニタリングを実施し、若い世代へのPR方法等についてのコメントをもらい、SNSの積極的な活用など、すぐに出来るところから実行に移しました。  【課題】 ・貸切公演は利用者の満足度が高く、結果的にリピート率も高いが、新規利用の割合が低いのが課題です。リピーターの継続理由などのリサーチを行い、新規利用者の開拓につなげたい。
	22	・市民サポーター制度を活用したモニタリング結果を企画に反映	□市民サポーター等による公演モニタリング実施回数	2回以上	1回3名	C	7/7横浜商科大学の学生3名のモニタリングを実施。会場アクセス、若い世代へのPR方法についてもコメントを受けた。	
	23	②鑑賞のすそ野の拡大・公演入場者数の拡大 「大人のための寄席体験&交流プログラム」:新たな観客創造を目的に、寄席の楽しみ方の紹介や出演者との交流の場を提供	□「大人のための寄席体験」開催数	2回以上	1回	C	3/16のげシャーレで1回実施。施設外ではスケジュール調整がつかず未実施。	
	24		□合計参加者数	80人以上 (初来館者80%以上)	40名 (初来館者0%)	C	1回のみ実施の為、人数は目標に達せず。	
	25		■館外開催の場合、にぎわい座での鑑賞につなげる企画を実施 (館外開催の場合)実施		館外開催なし		施設開催のみのため、評価対象なし。	
	26		□貸切公演	要請により 6回以上	6回	B	企業、法人会、学校など。	
	27		□主催者の満足度(5段階)	4以上	4.7	A	貸切公演主催者用アンケート実施。	
	28	④にぎわい会員制度を活用し、リピーター作りに活用	□会員数	10,000人達成	15,565人	A		
	29		■購入履歴を活用した効果的なPR	実施	実施	B	「にぎわいポイントカード」昨年、発行月から2年有効に変更して使いやすくなり、順調に切り替えが進んでいる。 購入履歴と登録住所で抽出し、おすすめ公演や優待情報をピンポイントにメールでお知らせしている。	

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

(5) 市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動を支援します。	30	①市民の創造性や感性を育み、特定のファンに限らず幅広い層がにぎわい座を知ることによる将来の観客創造 ②大衆芸能を中心にしつつ、ジャンルを広げた企画 ③毎回重点テーマ(訪問先)を決めたアウトリーチの実施 「ワークショップ、講座」:寄席にちなんだワークショップ、野毛周辺で盛んなジャズを知る講座、横浜トリエンナーレ及び横浜芸術アクション事業に合わせた音楽・美術・舞踊のジャンルで大衆芸能と親和性を持たせたワークショップなどの開催	「寄席文化体験」 □講座開催数	2講座以上	2講座3回	定例の「寄席文字講座」(2回)のほか、2年目の「野毛山動物園で楽しむ動物ものまね」の2講座3回実施。	【成果】 ・定例の「寄席文字講座」や「野毛まちなかキャンパス」のほか、野毛山動物園と共催の子ども向けの講座など、バラエティに富んだ内容の講座を開催しました。  ・団体向けのオンデマンドでのバックステージツアーは横浜そごうの福袋企画や街コンなど、様々な団体からのご要望を受けて目標の約2倍の回数実施し、にぎわい座の魅力発信につなげました。参加したお客様の満足度は高く、また、数をこなすことでツアー内容のブラッシュアップやスタッフのスキルアップにもつながりました。  ・アウトリーチは新規開拓の1施設を含む9回実施しました。新規開拓した1件は市民サポーターとの協働により実施しました。それぞれの施設の期待に応えられる若手芸人を起用しました。  【課題】 ・アウトリーチの受入や継続について、にぎわい座としての方針を明確に定める必要があります。	
	31		□同 合計受講者数	50人以上	62人	A		
	32		■開港160周年プレ事業 大衆芸能や開港以来の横浜の街に関する講座	実施	実施	野毛まちなかキャンパス(11/26分)および神奈川県退職公務員連盟女性部向けに実施。		
	33		■企業や教育機関と連携した講座	実施	実施	横浜商科大学と共催(野毛まちなかキャンパス)		
	34		「野毛まちなかキャンパス」 □講座の共催開催数	2回以上	2回	B		
	35		□同 会場提供数	3回以上	3回	B		
	36		□同 職員の講師派遣数	2回以上	2回	B		
	37		「バックステージツアー」 □一般向け(子供向け含む)開催数	3回以上	2回	C		
	38		□団体向けオンデマンド開催数	5回以上	9回	A		
	39	「アウトリーチ」:将来の観客作り、にぎわい座のPR、上演の可能性拡大、多くの方に大衆芸能の楽しさを伝えること等を目指した、施設外での取組	「アウトリーチ」 □子育て支援施設での実施数	2回以上	未実施	C		
	40		□若手芸人起用数	2回以上	9公演 延べ15名/団体	A		
	41		■アウトリーチ	実施	実施			
	42		□アウトリーチ先の新規開拓施設数	2施設以上	1施設	C		
	43		■市民サポーター協働のモデル事業としての実施	実施	実施			
			■個性的なロケーションでの演芸会の実施	(1-2)再掲				

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

(6) 子どもの創造性育成の取組を行います。	44	①大衆芸能の楽しさと伝統を伝え、日本の文化への理解を深め、子どもの創造性や感性を育む  「寄席体験プログラム」:小学生向けに寄席体験の機会を提供	□実施回数	6回	7回	A	「寄席体験プログラム」は、6月、10月の7日間7公演実施。  「寄席体験プログラム」には、市立小学校19校児童1,682人参加。  その他に県立高校、私立中学校など3校が貸切公演による寄席体験を実施し、生徒728人が参加。合計では2,410人が参加。	【成果】 ・今年度も継続して寄席体験プログラム、芸術文化教育プラットフォーム、はまっ子未来カンパニープロジェクトを実施し、学校ニーズに合わせたプログラムを実施しました。  ・学校による貸切公演での寄席体験プログラムも、リピータ校、新規校、ともに要望があり実施しました。学校側のニーズと評価を実感することができました。  【課題】 ・落語を教育に活用するニーズが定着してきています。貸切公演とも連動していますが、公演を観るだけでなく、寄席文化を体験できるというメリットをもっと発信していきます。	
	45		□参加児童、生徒数	1,700人以上	19校 生徒1,682人	B			
	46		■学校との情報交換など事業を通じた連携	実施	未実施				
	47		□コーディネート校数	3校以上	4校	A			
	48		□教育委員会、教育機関との連携 アウトリーチや大衆芸能を主題にした教員向け研修など	要請に応じて実施	実施				
	49		□その他(学校行事への協力等)	実施	実施				

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標②		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
2 大衆芸能に関する情報の収集及び提供を行います。	1	①情報収集及び提供 ・公演情報の集積(他施設情報の収集、配架の工夫)	■より分かりやすく手に取りやすい配架方法への変更	実施	実施	チエック エントランスに各種受賞祝いの看板を設置。横に受賞者出演予定のチラシを配架し、手に取りやすく工夫。	【成果】 ・自主、貸館、他館の公演チラシを分かりやすく配架。各種受賞者を祝う看板をエントランスに設置し、関連公演のチラシを隣に置くなど、分かりやすく手に取りやすい広報に努めました。  ・金沢区で実施した区民優待デーは、「広報よこはま区版」掲載や町内会回覧板といった普段使用できない広報ツールで、地域にきめ細やかに広報し、成果を上げました。  ・多くの自主公演について担当者が終演直後に公演の様子をSNSで発信し、舞台の感動と余韻を伝えました。  ・展示事業では、近隣施設、NPO、市民団体との共催(野毛山動物園写真展、黄金町バザール2018展、干支の絵展)など市民協働のもとに開催し、多くの観覧を得ました。桂歌丸館長の追悼展示を含め、全12の展示を行い、通年で情報コーナー、展示コーナーを活用しました。歌丸館長の追悼展示は一ヶ月半余りの期間で4,000人もの来場者を記録しました。  【課題】 ・電子大福帳(過去公演の演目、演者掲載)の一般公開は、想定を超える内容の検証が必要になったため、31年度公開となりました。  【評価する点】 ・メルマガやtwitterでは当日券情報など公演情報をこまめに掲載する努力が感じられるほか、豆知識や舞台裏情報を提供するなど読者を飽きさせない工夫もなされています。 ・歌丸館長追悼展をはじめ大衆芸能や地域に関する展示会を継続して行っています。 ・Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2018など市の文化事業への協力により、異なる分野との交流につながっています。  【更なる取組を期待する点】 ・電子大福帳の取組に着手したことを評価するとともに、早期の情報整理と公開を期待します。 ・大衆芸能の拠点施設として、野毛地区をはじめとする地域に親しまれる取組に加え、地元経済の活性化等につながる、より一層の取組の強化を期待します。	
	2		■チラシラックに「スタッフのお薦めコメント」を付け親しみやすさを付加	実施	未実施	貸館チラシの配置見直しと、ご意見投書への回答揭示をリニューアル。主催興行については、配架位置の見直しのみ実施。		
	3		■町内会、野毛ちかみち掲示板の活用 通行人にむけて、にぎわい座の楽しみ方を紹介	実施	実施	野毛ちかみち掲示板は常にチラシを貼り替え、最新情報を揭示。		
	4	・記録(自主事業の映像記録、電子大福帳) ※資料としての公開等、活用に向けた取組みの実施	□電子大福帳にすべての公演情報を入力	実施	実施	貸切公演を含む全256件を入力。		
	5		■「名作落語のタベ」など、これまでの上演演目をホームページ等で公開	実施	実施	「名作落語のタベ」ホームページ上に特集ページを作成。30年度公演について、今後の公演のみどころ、終了した公演のアーカイブを掲載。電子大福帳の一般公開用システム構築完了。公開は31年度の予定。		
	6		・情報提供、相談対応(大衆芸能公演の実現に向けた市民等からの相談照会への対応)	□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート件数	30件以上	22件		C チーフプロデューサーには新聞社や演芸人からの相談もあった。
	7		・広報、ホームページ ※訴求ターゲットを意識した公演チラシデザイン等の改訂 ※ホームページのコンテンツ拡充 等	□WEB会員へのメールマガジン年間配信回数	24回以上	31回		A チケット発売情報、来月のおすすめ公演を定期配信。こども寄席や小ホール公演など、購買履歴をもとに、対象をピンポイントで選択した送信も実施。
	8		「Twitter」 □年間配信回数 公演や開館案内だけでなく多彩な内容でのTwitter配信 ■地域の行事	400回以上	765回	A 公演情報、券売状況のほか、公演レポート等を配信。		
	9			実施	実施	野毛や横浜のイベント情報、季節の情報を積極的に配信。 20行事21回		
	10			■大衆芸能ミニ知識等	実施	実施		季節や行事にあわせ、豆知識を配信。 9回配信
	11		「チラシ」 ■公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用。落語未経験者を意識した掲載内容を考慮	実施	実施	・「こども寄席」平易な言葉で演目のあらすじを掲載し、初心者にもわかりやすい内容とした。 ・「大人のための寄席体験 落語のトビラ」では花のイラストを使用するなど、女性が手に取りたくなるデザインで作成した。		
	12			■財団の広報ACYグループと連携したプレスリリースの実施	実施	実施		「追悼 桂歌丸展」など全4回のプレスリリース(PRTIMES)を実施。 ほかに、広報よこはま1月号2面に特集掲載。落語基礎知識、にぎわい座の活動紹介など。全155万部発行。  3月から市営地下鉄・桜木町駅上り側ホームに沿線文化施設の広告看板掲出。にぎわい座でも2面3/14、3/16 2回実施、計8名参加。
	13		・メディア懇談会	メディア懇談会 □記者や編集者を対象にした懇談会を開催	1回以上	2回		A



平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

	14	②展示・演出 ・常設展・企画展・協力展(通年) ・開館15周年特別展(H29年度) ・照明や解説文などの工夫による展示の質向上、英語によるキャプション作成	企画展 □年間開催数 ・中嶋修展 ・平岡正明展 ・写真展 ・寄席文字展 など	4回以上	8回	A	5/1-31「平岡正明展「平岡的」」 6/3-8/1「中嶋修「にぎわい座を描く2018 ～横浜にぎわい座、高座客席舞台裏～」」 6/16-9/15「寄席文字講座関連展示」 8/4-9/16「Colorful みっちっちが描く、たい平落語の世界」 11/1-12/18「追悼 桂歌丸展」 1/1-3/18「新春手ぬぐい展」 2/1-28「歌丸賞受賞者 浜田太一展」 3/1-31「お笑いぽっちり倶楽部会員写真展」を実施。		
	15		□「黄金町バザール2018」サテライト展示	実施	実施		9/18-10/31「黄金町のアートと工芸」を特定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターと共催。		
	16		市民団体や近隣施設と連携した特別展 □年間開催数 ・野毛大道芸展 ・千支の絵展	2回以上	3回	A	「野毛呑み食い交遊録 森直実写真展」、「黄金町のアートと工芸」ほか、4つの特別展、協力展を実施。		
	17		常設展 ■解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上	実施	実施		企画展、特別展にスペースが必要となったため、5月以降の常設展は見合わせ。		
	18	・1階エントランスの演出、1・2階オープンスペース等での情報掲示 ・展示事業の案内を1階エントランスやホームページに掲出	□季節の館内装飾展示替え回数	10回以上	14回	A	毎月展示替えを実施。正月は全館を華やかに装飾。		
	19		■写真映えを意識した館内展示	実施	実施 (継続)		1階エントランスに装飾、2階エレベーターホールに記念写真コーナー設置(常設)。		
3 街のにぎわいづくりに寄与します。	20	①野毛地区との連携 ・「野毛地区街づくり会」や「野毛飲食業協同組合」と連携して、お互いのイベント広報活動に協力 ・野毛地区と互いの集客が好影響を与える点を重視した取組 ・公演鑑賞と野毛での飲食の楽しみを加え、お客様にも野毛の飲食店にも喜ばれる企画の実現	■野毛地区飲食業協同組合の「野毛通手形」(飲み歩きクーポン)に参加	参加	参加		野毛飲食業協同組合との連携事業として、8/1～「野毛手形」を窓口で販売(通年)。 ※野毛通手形→野毛手形に名称変更	【成果】 ・共催事業の実施、自主や貸館公演での利用などで今年度も野毛地区と連携した取り組みを継続しました。「野毛大道芸」広報協力のほか、通年で「のげやまくん情報」を掲出し、街全体の盛り上げに参加しました。	・野毛の飲食店には、当館のポスターを掲出し、広報にご協力いただきました。
	21		■公演チケット提示による飲食店でのサービス提供などタイアップ等の実施	実施	実施 (継続)		8/1～通年「野毛手形」提示で公演チケット10%引きのサービスも実施。近隣ハンバーガーショップで半券提示割引継続実施。		
	22		■合コン企画に参加し、新規来館者を獲得。野毛への誘客も実現。	実施	実施		9/9「神田蘭真打昇進披露公演～レビュー 講談初見参」の際に、ミドル向けの合コン企画を実施。10名参加		
	23		■のげ茶屋と連携し、公演鑑賞を更に楽しくする飲食サービスの提供	実施	実施 (継続)		団体客から弁当などの手配希望があった場合、随時取り次ぎ。予算や要望にあわせて、野毛の飲食店にオリジナル弁当を用意してもらいました。自主公演では、「落語のとびら」で、地元飲食店数件からケータリングして野毛の味を紹介。	【課題】 ・野毛の街との連携は、地域の要望に応じる、利用者の要望とつなぐの双方向で行っています。案件ごとに優先順位をつけて進めます。	
	24		野毛地区主催のイベントへの協力 □「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施	5公演以上	4公演	C	JAZZセミナー、野毛地区敬老演芸会、チャリティー寄席野毛地区カラオケ大会を共催。		
	25		■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	実施	実施		野毛大道芸のポスター掲出やパンフレット配架を積極的に実施。Twitterでもイベント紹介。		
	26		MM21地区からの誘客 ■MM21地区の就業者の交流団体向けにイベントを実施し、野毛への誘客を実現	2回以上	2回	B	かもめスクールで講座とにぎわい座での落語鑑賞会を各1回開催。講師はチーフプロデューサー。		
	27		■野毛の魅力を紹介する公演の実施 ・革命寄席 ・平岡正明展「平岡的」(再掲)	実施	実施		5/31「『革命』寄席featuring平岡正明」 5/1-31関連展示「平岡正明展「平岡的」」を実施		

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

4 市民と大衆芸能をつなぐ取組を行います。	28	①市民と大衆芸能をつなぐ多様な取組み ・鑑賞や自演・学習・体験だけでなく、他のアプローチで大衆芸能の支援者、ファンを増やす取組の実施			実施	Twitterに終演後レポートを掲載(不定期)。8月の「横浜にぎわい寄席」でゆかた割引を行い、夏のお出かけ来館を促進。	【成果】 ・公演情報や券売状況をアップすることが多いTwitterに、公演内容のレポートを不定期に掲載するようにしました。公演の様子などが分かると好評です。 ・アートNPOや社会福祉法人と協力し、その専門性やネットワークを活かしたアウトリーチや展示事業を実施しました。市民サポーターと実施した古民家での出前落語会は、次年度につながる公演となりました。  【課題】 ・若い観客層を取り入れるための広報ツールの確立。
	29	②サポーター等との協働 ・にぎわいスタッフ	□にぎわいスタッフの声を活かすための改善提案アンケート実施数 ■チケット販売促進プロジェクト推進	2回以上	2回	B アンケートで意見を収集。	
	30			実施	実施	にぎわいスタッフによる団体販売、4公演121枚販売。	
	31	・市民サポーター ※生徒・学生等の実地体験等を積極的に受入れ	□アウトリーチ、鑑賞者開拓、広報活動、施設へのアクセシビリティ向上、バリアフリー検証等での活動実績数	8件以上	17件	A 福祉施設や銭湯での出張寄席を継続して実施。新しい取組としては、29年度に準備を進めていた、栄区での落語会を実施。古民家の親密な空間に、そばの振る舞いもあり、共催ならではの雰囲気が好評だった。  若者を寄席に呼び込むため、学生の視点でのモニタリングを実施。SNS活用などの意見があった	
	32	・職業体験、アートマネジメント実習	■学校や学生からの要望があれば積極的に受入れ、にぎわい座ならではの体験の場を提供	実施	実施	中学2年生の職場体験2校を受け入れ、演芸場の仕事を紹介。ほかに、軽井沢中1年生の職業インタビューにも対応した。	
5 都市戦略及び他施設と連携します。	33	①都市戦略との連携 ・横浜アーツフェスティバル、オリパラ関連事業等との連携	「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」 □要請にあわせて、連携企画、広報協力など実施	要請に応じて実施	実施	主催興行として、8/12「上方落語と寄席の踊り」を開催したほか、8/6 Dance Dance Dance@横浜主催「教師のためのダンスワークショップ」会場提供	【成果】 ・「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」に協力し、主催興行で「踊り」をフューチャーした公演を実施。そのほか、会場提供を行いました。  ・横浜ダンスコレクション2019(共催)は、3タイトル全14公演を共催し、コンテンポラリー・パフォーミングアーツ分野における、のげシャーレ(小ホール)の更なる活用につなげました。  ・横浜能楽堂の協力のもと、狂言と落語のコラボレーション公演(「狂言と落語の会～人間vsもののけ 勝のはどっちだ」)を開催し、舞台芸術の楽しみ方のバリエーションを広げました。  【課題】 ・横浜アーツフェスティバルとの連携では会場提供がメインとなっているが、SNSの発信等、広報面での協力を強化し、普段の客層とは違う層へのにぎわい座をアピールする機会としたい。
	34		「2020オリ・パラ関連企画」 ■外国人による公演モニターを実施	実施	未実施	モニタリングは未実施。横浜能楽堂のギリシャ人インターンを施設見学受け入れた。	
	35		「横浜ジャズブロムナード2018」 ■会場運営チーフに職員を派遣	実施	実施	職員1名を関内ホール小ホールのチーフとして派遣。	
	36		「TPAM―国際舞台芸術ミーティングin横浜2019」 ■会場提供、運営支援、広報協力を実施 「横浜ダンスコレクション2019」 ■会場提供、運営支援、広報協力を実施	実施	実施	「横浜ダンスコレクション2019」の連携により実施	
	37			実施	実施	「ダンスクロス アジアセレクション」 「コンペティションⅡ 新人振付家部門」 「カンパニーデラシネラ～『見立てる』」全11日間、17公演を共催。合計入場者数638人。ほかに、ワークショップやリハーサル会場として利用。	
	38	・アフターコンベンションでの来館促進によるMICE推進			実施	野毛通手形が野毛手形＝MICE連携となり、参加店舗の紹介とサービス内容を日本語と英語で広報。企業イベント等で来日する団体へのPRツールとして活用されている。	
	39	・修学旅行やツアーでの企画商品化	□旅行企画商品化件数 ・修学旅行 ・横浜遠足	3件以上	4件	A 旅行会社による申し込み含め、貸切公演3件。この他に、市立中学校の街歩き校外学習を実施。	
		②他施設等との連携 ・「財団内施設」 「若手支援・舞台芸術の振興」 「地域連携」 「その他」などの場面・目的に応じた施設連携	■狂言と落語のコラボレーションなどにぎわい座オリジナル公演を開催(再掲)  ■個性的なロケーションでの演芸会の実施(再掲)  ■「黄金町バザール2018」にサテライト展示会場として参加(再掲)	(1-2)再掲	実施	3/9「狂言と落語の会～人間vsもののけ 勝つのはどっちだ」を横浜能楽堂の協力を得て開催	
				(1-2)再掲	実施	7/15本郷ぶじやま公園「出前落語会」	
				(1-2)再掲	実施	10/27「出前演芸会」 9/18-10/31「黄金町のアートと工芸」展示	

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
Ⅱ 施設運営目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供を行います。	①各室場を、公演、練習、創作活動の場として積極的に貸出し、市民文化の振興に寄与。 ※大衆芸能での利用を優先し、空きがある場合はそれ以外のジャンルでの利用にも提供 ・施設の提供	①基本的な施設の提供 □開館日数・時間	341日(月2回 施設点検で休館) 10時～22時 (→2に記載)	341日		【成果】 ・計画通り施設運営を実施しました。  【課題】 ・後段の利用率、利用料金の目標未達成を考慮し、貸館セールスを意識した業務見直しが必要です。	【評価する点】 ・舞台技術など各スタッフを適切に配置し、様々な面での人材育成を通じて、来場者や出演者に信頼される施設運営がなされています。 ・来場者の意見に耳を傾けたことによる、携帯電話抑止装置の設置や鑑賞マナーチラシの作成について、高く評価します。また、歌丸館長逝去時の記帳台の設置や追悼興行の実施など、周囲の期待に応じた適切な対応がとられています。  【更なる取組を期待する点】 ・利用率の向上については、自己評価に記載された取組について、市と連携した検討を期待します。 ・個人情報の適切な管理や職員の人権意識や環境への意識をさらに高め、市民から信頼される人材育成に継続して取り組んでください。 ・にぎわい座ならではの公演や集客に資する公演など、魅力的な企画を継続できるような専門人材の育成に、引き続き取り組んでください。
	・貸館の運営体制 ※貸館受付:常時2名以上在席(舞台技術者は常時1名対応可)	③貸館の運営体制 ■管理担当職員1人を貸館メイン担当とし、舞台技術者とともに公演打合や利用相談を担当 ■見学対応は全員で実施	実施	実施	ホールは管理職員1名が専任的に担当することで、ノウハウを蓄積。		
			実施	実施	全員が対応することで急な見学依頼も受付。		
	・舞台運営体制	■舞台技術スタッフは芸能ホール3人、小ホール1人(小ホールは利用状況に応じて2人体制) ■舞台技術統括責任者は経験10年以上、残り4人も経験5年以上	実施	実施	利用者の安全に配慮し、施設貸出を実施。		
		④ 要望・苦情への対応	(→2に記載)	実施	統括責任者は経験29年、他も条件を充足。		
2 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用に取り組めます。	・稼働率目標	□目標利用率				【成果】 ・利用実績のある団体への営業を行い、利用率、利用料金収入とも昨年度より微増とすることができました。  ・撮影や貸切公演には、柔軟に対応しています。  ・歌丸館長が逝去され、にぎわい座でも記帳台を設け、取材対応をしました。記念展示や追悼興行を行い、大勢のお客様を迎えています。  ・公演中の携帯電話着信が頻発したため、芸能ホールに携帯電話抑止装置を設置。、鑑賞マナーチラシを作成して、主催公演で配布し、マナー向上につながりました。  【課題】 ・小ホール、練習室、制作室の利用率が目標未達です。より施設営業に力を入れ、販促力をあげていきます。  ・見学会については、手法の見直しに取り組む必要があります。  ・小ホールは市民利用施設との競合を考慮し、大衆芸能以外の文化利用(演劇、ダンス、音楽など)の申込時期の見直しや練習室・制作室の優先利用を検討するなど、制度の見直しが必要です。  ・制作室は小ホール楽屋スペースに当たることから、ダンスや演劇公演では正価で同時(優先)利用されています。制作室、練習室それぞれの利用率向上も課題ですが、増収につながる見直しにつなげる必要があります。  ・空き室広報や対象の絞り込みができるよう、施設利用システムに手作業で行っているスケジュール機能や利用分析などのデータ抽出機能等を盛り込んだ改修・更新を行いたい。	
	6-1	芸能ホール(日)	79%	80%	B	目標達成できた	
	6-2	のげシャレ(日)	69%	63%	B	目標には達せず。29年度よりも減少。	
	6-3	練習室(時間帯)	70%	67%	B	29年度を上回るものの目標には達せず。	
	6-4	制作室(時間帯)	50%	39%	C	目標には達せず。29年度よりも減少。	
	7	・利用率及び利用者サービスが高まる工夫	■土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNSで案内	実施	実施	貸出抽選会後の土日祝日の空き情報をホームページで案内。	
	8		□利用希望者施設見学受け入れ	12件以上	19件	A	全員が対応することで、急な見学依頼も施設が空いているかぎり受け付けている。
	9		□見学会開催	2回以上	1回企画参加者なし	C	芸能ホール、小ホール(練習室、制作室含む)の見学会を金曜夜に企画した。小ホールは演劇とダンスに特化してPRを行った。参加者なく、2回目開催を見合わせた。ただし広報効果はあり、個別対応で見学、新規利用に繋がっている。
	10		□練習室利用促進のため、大学のダンスサークルへの宣伝活動実施	10団体以上	5団体	C	部屋の広さと費用対効果の観点から、PR対象を練習室から小ホール主体に変更した。ダンス、演劇利用が見込まれる大学5校にメールで見学会の案内を配信した。
	11		□練習室、制作室の紹介ツール作成	2種以上	1種作成1件実施	B	練習室、制作室の紹介ポスターを、館内、館外ポスターケースに通年掲出。公募美術展の広報物に練習室、制作室の広告を掲出(50,000部)。
	12		□のげシャレ利用促進のPR活動 ・クリエイターや美大生を採用しSI実施	実施	未実施		クリエイター活用については費用対効果から見合わせた。
	13		□若手芸人を支援する「共催公演」での、のげシャレ活用(再掲)	(再掲)	3名3公演	A	落語会2公演、浪曲と落語の会1公演を支援し、共催で実施した
	14	・新規の利用者を増やすための工夫	□表方スタッフの配置サービス提供数	要望により2 件以上	2件	B	9月の貸館公演(落語会、花詩歌タカラヅカ)で表方スタッフを有償配置。
	15	・経常公演前後のホール活用プラン	□撮影での貸出	2回以上	8件	A	NHKワールド「落語」のほか、NHK「サラメシ」「美のツボ」「知恵泉」の番組収録、MV収録に貸出。
	16		■施設利用料金の設定がないスペースでの、撮影貸出運用	実施	未実施		29年度に施設利用料金の設定のないスペースの貸出体制を整えたが、30年度は要望なし。
	17		□経常公演期間中の空き時間の貸出	4件以上	4件	B	番組収録など、経常公演期間中の空き時間に貸出を実施。出演者手配で行うインタビューは無償提供することも多い。 テレ東「世界！ニッポン行きたい人応援団」では、ジョージアから来日した落語女子が円楽師匠に『寿限無』の稽古をつけてもらい独演会前に披露。終演後の正面入り口でのお見送りで、お客様から激励の声を受けるシーンが放送された。
	18	・要望苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて副館長まで報告	随時実施	実施		滞りなく実施。 公演中の携帯電話着信が頻発したため、芸能ホールに携帯電話抑止装置を設置した。鑑賞マナーチラシを作成して、主催公演で配布し、マナー向上につながった。
	19		■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告	随時実施	実施		必要に応じて実施。



平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→

	20	・グッズ販売	□グッズ取扱い数	5種類以上	11種類	A	オリジナル商品として、お土産マドレーヌを地元企業と開発。書籍、文具、手ぬぐいなど、アイテム数を増やし、価格帯を広げて買いやすくした。	
	21	・1階エントランスの演出、活用プラン	□地域イベントのインフォメーション実施	1回以上	4件	A	野毛大道芸、のげやまくん情報、野毛手形情報の掲出。 区民優待デー(合計7日間)で専用チケット販売ブースを設置。	
	22		■団体用チケット販売所としての運用	実施	実施	要望に応じて、当日チケット引換所や受付等にスペースを提供。		
	23	・売店事業者との連携	□のげ茶屋とのタイアップ	2回以上	36回	A	年間を通じて、貸館公演での営業、飲食品手配を連携して行った。幕の内弁当と助六弁当がそれぞれ打ち切りとなったため、「ご飯もの」継続を相談。仕入れ先を変更した。 「落語のとびら」公演でも野毛の味を紹介。	
	24	・利用料金の割引等の取組み	■小ホールと制作室のセット割引を設定	実施	未実施	制作室が小ホール楽屋スペースに当たることから、ダンスや演劇公演では正価で同時(優先)利用されている。利用拡大や増収につながる見直しにつなげたい。		
	25		■附帯設備セット内容を変更	実施	未実施	31年度以降に実施。 見直しに先立ち、利用実績がない設備の洗い出しを行う必要がある。		
3 組織的な施設運営を行います。	26	①適切な運営組織体制と人材の配置 ※館長1、副館長1、企画コーディネーター1、チームリーダー1、事業担当3(内1名はアシスタントプロデューサー)、管理担当3、アルバイト(事業・運営共通)2、公演表方チーフ1、にぎわいスタッフ最大30	■適切な人員の配置と運用 ※館長1、副館長1、CP1、TL1、担当L2(管理運営1、事業1)、職員4(管理2、事業2)、アルバイト2(4人2.5ポスト)、公演表方チーフ1(2人1ポスト)、にぎわいスタッフ最大30	実施	実施		※館長1、副館長1、CP1、TL1、担当L2(管理運営1、事業1)、職員4(管理2、事業2)、アルバイト2(3人2ポスト)、公演表方チーフ1、にぎわいスタッフ28。	【成果】 ・事業担当の専門性向上、人材育成はチーフプロデューサーを中心に進んでいます。芸術文化振興財団の舞台芸術系職員の育成計画が整い、研修やプレゼンテーションの機会も増えています。  ・サービス業に従事する施設として、AED研修・心肺蘇生研修、普通救命救急研修を定期的に受講し、スタッフ間で共有しています。  ・ <b>表方チーフを置き、専任することで接客業務の品質を一定に保ち、サービス向上につなげることができました。</b> チーフを中心に公演時の課題を整理・解決して、スムーズで均一なサービス提供を心掛けています。  ・貸館やチケット販売など、受付業務の効率的な作業手順を共有。OJTや能力別に個別指導をして、サービスの底上げを図っています。  【課題】 ・Gettiiの設定変更、セット券やweb抽選販売、預かりチケットの多様化など、新たなサービスが増え、窓口業務が複雑化しています。受付業務の見直しや業務マニュアルの更新が必要です。  ・施設予約システムで利用の抽出や分析、スケジュール作成、料金収納データの抽出や修正等ができず、手作業で補っています。作業の効率化や空き情報の公開のためにも、システム更新が必要です。
	27		■勤務体制はシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて出勤職員、人数を決定。	実施	実施	貸館、自主共に開演中の時間帯は、リーダー以上が在席して、安全管理に注力。		
	28	・自主事業の企画体制 ②主要人材の能力確保、研修実施、スタッフの育成・チームワーク醸成の取組み ※アシスタントプロデューサーの育成	■大衆芸能分野のプロデューサーを配置。事業担当職員を専門職員として中期的に育成。	実施	実施	チーフプロデューサー1名配置。事業担当職員を専門職員として中期的に育成している ※アシスタントプロデューサーは財団の専門人材育成施策の中で呼称を廃止した。		
	29		■市民サポーターや地域連携推進のため、職員がファシリテーターとしての役割を発揮	実施	実施	アウトリーチ事業の企画や相談対応。		
	30		■研修参加や資格取得を奨励	実施	実施	AED研修・心肺蘇生研修、普通救命救急研修。広報研修2回。携帯電話抑止装置設置のため、特殊無線技士免許を1名が取得。		
	31		■特定の課題、テーマについて全職員が意見を言える環境づくり	実施	実施	研修や面談前に、アンケートで課題を集め、関心の高いテーマ選択を行った。		
	32		■窓口スタッフの接客スキル向上	実施	実施	OJTはじめ、対象者を絞った研修を実施。意見徴集。個別面談も実施。		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を行います。	33	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	① 個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守	実施	実施		個人情報の取扱事故ゼロ。	【成果】 ・チケット販売システムにより、顧客情報やチケット購入履歴の安全な管理が実現しました。  ・ダブルチェックが定着し、ファックスや郵送における事務処理ミスは発生していません。  ・広報物作成にあたっては、公演情報、主催者情報を担当、チームリーダー、副館長の3人でチェックし、誤記載を防止しました。  【課題】 ・営業停止に直結する故障案件の増加に伴い、市内中小企業を探す余裕がなく、状況を把握し、緊急対応できるメーカーや点検業者に委託することが増えています。
	34		■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底	実施	実施	必ず2名での確認を徹底。		
	35		■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止	実施	実施	導入3年目。顧客情報は外部サーバーで管理。		
	36		② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施	実施	実施	副館長が講師となり、研修。		
	37		□にぎわいスタッフ向け接遇研修実施	2回以上	2回	B	にぎわいスタッフ向け接遇研修で人権尊重について研修。	
	38		③ 環境への配慮 ■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減	実施	実施	施設の利用スケジュールを管理センターと共有。利用状況に合わせて細かな調整を実施し、29年度より電気0.9%、ガス3.2%、水道0.4%とそれぞれ使用量削減したが、単価上昇により、料金は5%増となった。		
	39		■新たにゴミ処理有料化を軌道にのせ、ゴミの軽減と持ち帰りを促進。	実施	未実施	ロビーにゴミ箱を設置し、観客や練習系施設の利用に当てている。有料/無料の仕切り分けを検討する必要がある。		
	39-1		④ 市内中小企業優先発注 □備品・消耗品購入	90%以上	91%	B	市内中小企業への発注を心がけている。	
	39-2		□修繕・備品の買い替え	90%以上	42%	C	空調機やトランシーバー修理など、対応できる業者が限られる案件があり、修繕については目標未	
	39-3		□印刷物	80%以上	98%	A		



平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標		特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績		自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1	①施設及び設備の維持保全及び管理 ・共用部:ビル管理組合との連携、大規模修繕への配慮 ・専有部:建築設備等、舞台設備、備品、消耗品、清掃	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保全管理及び点検の遺漏ない実施	実施	実施	チェック 各項目を遺漏なく実施。	【成果】 ・保全管理、点検を遺漏なく実施しました。  【課題】 ・経年により調達不能な部品等も発生しており、故障に対応できないことが懸念されます。  ・一般照明の管球が一部生産中止で調達できなくなりました。芸方ホール客席照明(高所照明)に代替品を使用していますが、珠切れが頻発しています。	【評価する点】 ・施設、設備の保守点検を確実に行うとともに、施設の安定的な運営を意識した小破修繕に取り組むなど、着実な維持管理が行われています。 ・不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。  【更なる取組を期待する点】 ・引き続き、保守点検や小破修繕を確実に実施するとともに、施設の不具合情報を横浜市などの関係者と密なる情報共有をお願いします。 ・高齢者や障害者、酔客など様々な来場者に対する、スタッフ全体の接客スキルの向上を期待します。 ・災害発生時に備えた体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を継続して行ってください。
	2		■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施	実施	実施	毎日遺漏なく実施。		
	3		□設備の不具合による施設貸出停止件数	0件	0件	B		
	4		□来館者アンケートにおける施設快適性評価(5点満点)	平均4以上	通年達成4.44	A		
2 小破修繕の着実な実行	5	①小破修繕の取組	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施	実施	実施	20件2,905千円の修繕、1件15千円の更新 お客様責任の修繕・更新 計2件を実施。  空調機の故障・不具合が連鎖的に発生し、緊急対応を行った。この他に、芸能ホールに携帯電話抑止装置を導入。地下2階で携帯電話(au)使用に向けたアンテナ工事を電話事業者とともに準備した。	【成果】 ・頻発する故障に適切に対処し、利用者に影響が生じないように努めました。  【課題】 ・経年劣化は今後確実に増えていきます。、対応が遅れた場合、施設の運営に大きく関わる案件もあり、不具合報告や長寿命化相談を密に行うなど、市と連携した対応が必要です。	
3 事故予防及び緊急時の対応	6	①事故防止体制、緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理の実施、複合ビル内の連絡体制の確保	① 事故防止対策、緊急時(防犯)対応 □施設管理者有責による人身事故件数 □サービス介助士資格取得者在籍数	0件	0件	B	【成果】 ・施設有責事故や設備が起因となる事故は発生しておりません。  ・赤十字の障がい者介助研修、救急救命研修等を受講したスタッフを講師とし、視覚障がいと車イス介助・誘導研修を全スタッフを対象に行いました。  【課題】 ・高齢のお客様が多い施設として、全てのスタッフが適切な介助ができるように、引き続き研修等で取り組む必要があります。	
	7			1人以上	0人	C		
	8		■職員及び委託業者による巡回やモニタリングにより、危険、要介護者、および各種異常を早期に発見し、適切に対応	実施	実施	毎日5回巡回実施。利用の前後に室内のチェック、舞台機器の動作確認を行っている。		
	9		■施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口のにぎわいスタッフが常駐し、開施設及び管理を実施	実施	実施	施設の利用に合わせて的確に配置。毎日の朝礼でスケジュールや入館予定を共有。		
	10		②感染症対策 ■職員及び委託業者による巡回で異常を早期に発見。	実施	実施	職員と清掃業者が連携して実施。		
	11		■汚物処理は感染症を念頭におき、効果的に実施。	実施	実施	汚物処理を数回実施。		
	12		③緊急時の体制、連絡体制 ■ローテーション勤務の中、予め当日の責任者を明確にして対応。	実施	実施	出勤者のうち上席者が緊急対応時にリーダーとなる。防災訓練でも繰り返し指導。		
4 防災に対する取組	13		■自主事業や観客の多い貸館公演の日は、出勤職員を増やして対応。	実施	実施	シフト作成時に考慮。貸館、自主ともに公演時間はリーダー以上が在席。		
	14	①危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施、その他防災に関する事項	■現行マニュアルの検証と改訂	実施	実施	事故報告基準を見直し、スタッフ共有。	【成果】 ・避難誘導時の各自の行動を簡潔に記した「防災シート」を活用した全員参加の防災訓練を2回実施しました。一時避難所へのルート確認、要介護者の誘導を行いました。  ・事故報告の報告基準をみなおし、災害時の通報、ノロ対応などとともに情報共有しました。  【課題】 ・不審者対応、酔客クレームなどへの訓練も必要です。	
	15		□異なる設定で全職員参加の避難訓練実施	2回以上 (うち1回は町内会・マンション住民参加)	2回	5/16「小ホール火災訓練、避難ルートの確認」、10/17「地震避難、障がい者誘導」の計2回実施。近隣参加者なし。		
	16		■非常時には一時滞在施設・避難受入施設と同等の対応を実施	実施	体制維持要請なし	AEDリース更新。		
5 その他管理に関する事項	17		■専門業者に委託し、関係法令ならびに管理業務基準に沿った管理・保守点検を実施	実施	実施	ビル全体の管理業者に一括管理委託。毎月ミーティング実施。	【成果】 ・管理センターとは常にコミュニケーションを取り、管理・保守点検を遺漏なく実施しました。  【課題】 ・専有部分の保守・管理は業務委託していますが、消防設備など共用設備は管理組合が管理しているため、不具合対応に時間がかかる傾向があります。	

平成30年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
Ⅳ収支		特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1		(収支計算書) 適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	(収支報告書) ・30年度決算は1,840千円赤字。	【成果】 ・光熱水費増で赤字となりました。  【課題】 ・保守点検により16年間設備を維持していますが、設備の老朽化が進んでいます。空調設備やITV、舞台設備などの不具合報告を密にし、長寿命化工事実現にむけ準備を重ねます。  【評価する点】 ・指定管理料以外の自主的活動による収入が前年度を上回っており、それぞれの取組の成果が感じられます。光熱水費の単価高騰により結果として赤字となってはいますが、貸室の利用促進、チケット販売の工夫やオリジナル商品の開発など、一つ一つ可能なところから取組に着手している姿勢を評価します。	
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造		①指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	①利用料金収入の確保 ■利用率 □収入目標	(Ⅱ-2再掲)			【成果】 ・施設利用; リピーター営業を行い、29年度より僅かですが増収となりました。  ・入場料収入: チケット販売システムによるインターネット販売が定着しました。人気興行の抽選販売、セット券販売は、買いやすさと未払い抑止の効果をあげています。区民優待は1区と少ないものの、昨年度実績によりリピート集客が増加しています。  【課題】 ・利用料収入: 3年連続して目標に達しておらず、不足を事業収入でカバーしています。にぎわい座は大衆芸能の普及を目的としていますが、多目的な仕様的小ホールについては、他の利用に門戸をひろげる余地があります。小ホールを演劇・ダンス団体に売り込むにあたり、5か月前の応当日申込を見直し、市民利用施設と同じ6か月前申込にするなど、競争できる体制づくりを検討します。  【更なる取組を期待する点】 ・これまでの取組を継続するとともに、新しい視点での支出抑止と収入安定化に向けた取組を期待します。	
	2		□収入目標	21,000千円	19,053千円	C		利用率、利用料金収入とも29年度を上回るものの、目標には達せず。
	3		②チケット受託販売					
	4		□受託実績 ※公演月若しくは精算月に計上	24 公演以上	42公演	A		チケット取り扱い中であることをホームページや掲示物でPR。説明が必要な見切れ席販売や連絡がとりにくい主催者への問合せ対応などで、貸館利用者をサポートしている。
	5		■チケット取扱い中と分かるチラシ、ポスターの掲出	実施	実施			チラシ配架等に工夫し、チケット取扱い中の公演と取扱いの無い公演を分かりやすく紹介。
	6		③自主事業収入の増収 ■WEB 申込みなどチケット購入方法の利便性向上	実施	実施			抽選販売、セット券販売などチケット販売システムの機能を活用した販売方法を活用。買いやすさと未払い抑止の効果をあげています。
	7		□入場料収入	132,200千円	143,469千円	A		「名作落語のタベ」、正月興行が好調。歌丸館長の追悼興行なども。
	8		■団体誘致用企画の実施	再掲	4回	B		PTAお試し鑑賞会を実施。
	9		□団体販売実績(月平均)	月8 団体以上	月平均6.8団体 82団体	C		先押さえ電話予約や旅行会社手配など。窓口で直接購入した場合は、カウント不可となる。実際には10名以上の団体利用は増加。
	10		④協賛金の獲得 □協賛(現物協賛を含む)件数	3 件以上	協賛 3件 助成 1件	A		チケットホルダーへの広告掲載ほか、撮影協力金、助成金を獲得。
	11		⑤オリジナル商品開発及び販売 □商品売上	200千円以上	1,252千円	A		お土産マドレーヌを商品開発。文具や手ぬぐい、干支手ぬぐい、書籍など、アイテム数を増やしたことで、大幅売り上げ増につながった。
	12		□オリジナルグッズ	1種類以上	2種類	B		館内展示でも紹介している中島修オリジナルデザインの手ぬぐい(継続)のほか、地元の老舗菓子店と開発した、お土産マドレーヌを販売。近隣の「おつかいもの」にも活用されている。
	13		⑥テレビ番組収録の誘致 □経常公演のテレビ収録	6 回以上	2回	C		「名作落語のタベ」2公演。
3 経費削減及び効率的運営努力	14	①経費節減等効果的運営の取組	⑦経費削減 ■入札、見積もり合わせの徹底	実施	実施		【成果】 ・表方チーフ制を継続。表方業務を大幅シフトすることで、職員が他の業務に従事する時間を確保できました。  ・事前申請の徹底とあわせ、超過勤務時間も目標を達成しました。  【課題】 ・表方チーフが1名退職し、1名体制となりました。今後、新たな表方チーフの人材確保が必要です。	
	15		■計画的なチラシ発送による郵送料の削減	実施	実施			チラシの発送を月2回に集中実施。
	16		⑧コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーフ制による業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施			表方チーフ(定年後の再雇用)による公演対応150公演。
	17		■超過勤務の事前申請の徹底	実施	実施			事前申請により、業務進捗の確認と作業の効率化を図りました。

評価項目		H30年度計画	実施状況	評価	
総括		達成指標	特記事項	自己評価	行政評価
	1			<div>・経常公演全体を安定的に実施し、社会の落語への関心の高まりを、観客創造・誘客・販売促進につなげ、大衆芸能への入り口としての役割を果たしています。</div> <div>・アウトリーチや寄席体験プログラムの実施や教育機関との連携を通じて、市民や子どもの体験・鑑賞機会を増やし、大衆芸能と社会の関わりを深めました。</div> <div>・広報では、来館経験のない層や学生など若年層に訴求する手法として、ツイッターに写真を載せたりし、大衆芸能全体の知識や関心が高まる情報提供を行いました。</div> <div>・貸館サービスの充実と利用促進のためのPR活動等、施設利用率を向上させる活動を続けていますが、利用率、利用料金収入ともに目標未達となり、今後の課題となっています。</div> <div>・収支面では、光熱水費の高騰をカバーする収支バランスのとり方が課題となりました。</div>	<div>・事業面は昨年度に続き全般的に好調です。落語界全体の盛り上がりと、施設の努力や工夫が良い方向へ連鎖反応を起こしていると考えます。一方、貸館利用率向上の取組については、引き続き検討が必要です。</div> <div>・次世代のすそ野を拡大する取組を、工夫をしながら細かく取り組んでいることが様々な場面で確認できました。</div> <div>・今後は健全な財務状況の確保を意識しつつ、事業面でのさらなる挑戦と、貸館運営の底上げに、バランス良く取り組んでください。特に、公演の集客や施設利用者、周辺プログラムの参加者等を含めた、より多くの市民に大衆芸能の魅力を伝えていくことにより、横浜にぎわい座の役割を引き続き果たしていくことを期待します。</div> <div>・各取組についてはしっかりと実績の評価・検証と改善を行いながら、今後の発展的な継続に向けた取組を進めてください。</div>